

安倍9条改憲反対！さようなら原発！

・・・どうして若者が少ないの？ <鎌田慧さん 5/3 記念講演>

鎌田さんは1945年8月15日“敗戦”を告げるラジオからの天皇の声を聞き、青空のもと“これから軍部の支配もなくなり明るい社会になっていく”“言論が自由になり自由に書ける”と希望を持ったとのこと。

そして2018年の今“民主主義と平和”を理解しない自民党総裁安倍と副総裁麻生が日本を牛耳っている状況に対して厳しく批判。と同時にどうしようもないこの状況に対して国会前では若者が少なく、ほぼ60代・70代・80代の人々が反対・抗議の声をあげている状況の問題点を次のように自己批判しました。



60年安保、70年全共闘・安保闘争を担った人々が次の世代の若者に自分たちの行動をつなげることを怠った（鎌田氏を含めて）。私たちの世代の怠慢だったと。高度成長期一億総中流と言われる中「自づからの生活を良くする」「子どもたちを良い大学へ」といったことしか考えず社会全体にかかわって来なかった。そして非正規労働が40%以上、年金もどうなるか分からない、若者にとって不安になるような社会にしてしまったのは、私たち60～80代の老人だと。

以上のような視点のもと現状への分析と批判を展開しました。

*森友問題、加計学園に対する政府の答弁はうそであったことが、3/2朝日新聞の調査報道で明らかになっても否定し続ける安倍、麻生、菅、官僚たち。

韓国では朴政権を打倒したが、日本では市民の力で権力悪を制裁することができないのは問題。民主化闘争へ進むべきと訴えました。

*9条改憲については、森友・加計・日報で汚れている手で日本国憲法の首を絞めるなど厳しく安倍政権を批判。“後法は前法を廃する”と言う法学の原則を示し“9条自衛隊加憲論”を批判。又、国民投票は相手の土俵だから発議させる前につぶすべきと訴えました。

*南北会談による板門店宣言について、世界的ニュースであり対話で米朝戦争を回避したものと認識。南北・米朝・中朝の会談＝対話で平和の道を模索し始めた世界の流れなのに、いまでも“圧力を加えていくだけ”と言い続ける安倍政権。

*沖縄辺野古新基地建設・高江のオスプレイヘリパット建設に対する沖縄県民の反対・抵抗に本土から500人以上の機動隊を送り弾圧する政府。大浦湾のジュゴンや珊瑚の美しい自然を砂利で埋めている政府。これらの政府の行動に無関心な本土のマスコミ等の状況を批判的に指摘。

*原発輸出をしてもすでに問題が発生している。それなのに原発再稼働を進める政府。「アンダーコントロール」と嘘をついている安倍首相に対してこれを止めさせられない私たちの運動の造り方を考えなければ・・・

*諸々の問題への市民の運動に若者が少ない、又、安倍政権への支持率が若者では高い点について基本的に老人の責任としつつもその原因として「学校教育の中で憲法全文をきちんと教えていない」点を指摘。更に、60年に労働組合が安保闘争を闘ったことを企業は総括し、企業の労組へのコントロールを実施。今では原発産業・兵器産業の労組からは反対の声が出ない。

最後に「憲法は人々の生きていく為の元。憲法を守り活用していきましょう」と語りました。